

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全	26年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	港の安全性・信頼性の向上	成果	コスト			
事務事業名	港湾施設の維持補修事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 <small>工事課、港湾工事事務所、施設事務所</small>
目的	対象(誰・何を) 意図(どういう状態にしたいか)	港湾施設である係留施設及び臨港交通施設等 老朽化している施設の安全性を確保するために維持補修を行い、延命化を図ります。			事業期間	～継続
概要	整備場所:名古屋港内 内容・規模:港湾施設は塩害などによる劣化の進行により損傷することで、性能低下が生じる場合が多く、大規模な損傷が発生すると人命及び船舶を危険にさらすこととなり、抜本的な改修工事で多大な費用と期間を要し、施設利用に支障をきたすため、定期的な維持補修が必要です。港湾施設である係留施設(岸壁、船だまり、物揚場)及び臨港交通施設(道路、橋梁)等の維持補修をします。 事業手法:防災・安全交付金事業				根拠法令等	社会資本整備重点計画法
事業着手時点の評価	順次、港湾施設である係留施設及び臨港交通施設等の維持補修を行うことにより、施設の安全性の確保及び延命化を図ります。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
27年度の実施予定	老朽化対策として北浜ふ頭の87号岸壁や中川運河護岸(北支線)の維持補修を行います。				関連シート	

2 DO(実施)

27年度に実施した内容・結果	87号岸壁では、鋼矢板の補修や腐食の抑制をする電気防食を実施しました。 中川運河(北支線)では、既存石積み護岸の老朽化対策として護岸の前出し整備を実施しました。					
コスト	単位	25年度	26年度	27年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	356,100	111,226	445,674	304,333	
人件費	千円	2,628	4,669	4,549	3,948	
合計	千円	358,728	112,469	450,223	307,140	

3 CHECK(検証)

指標名		25年度	26年度	27年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業実施率(%) (単年度管理型)	目標	-	100	100		100	事業実施率は、当該年度の実施計画における事業箇所数に対する実施事業箇所数の割合です。	
	実績	100	100	100				
	事業進捗状況(27年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り事業を実施しました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	老朽化している施設の安全性の確保や延命化に対する必要性は高くなっています。 維持管理計画書及び予防保全計画に基づき適切に事業を実施しております。						
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	老朽化した施設の安全性を確保することは、上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。 施設の補修等により、安全性の確保や延命化などの成果が得られていると考えております。						
効率性 最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	設計段階から最小のコストとなるように取り組んでいます。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	28年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	港湾施設等の適切な維持補修により、施設の安全性確保や延命化を着実に進めていく必要があるため。
課題			28年度以降の取組
港湾施設の劣化等による老朽化が進んでおり、利用者の安全や施設の利用に支障が出ないよう、維持補修を行っていく必要があります。			点検や巡視等を踏まえた維持管理計画に基づき、港湾施設の安全性の確保及び延命化を進めていきます。